

お 知 ら せ  
平成 29 年 2 月 3 日  
気 象 庁

## シンポジウム「数値予報～日々の生活に密着したソフトインフラ～」 を開催しました（概要報告）

気象庁では、1月28日（土）に、東京都千代田区（星陵会館）にてシンポジウム「数値予報～日々の生活に密着したソフトインフラ～」を開催し、多数のご参加をいただきました。

シンポジウムでは、東京大学の新野教授による基調講演に始まり、その後パネルディスカッションとして、数値予報の更なる利用拡大や、今後目指すべき技術開発等について議論しました。（別紙参照）

パネルディスカッションでは、「防災」と「社会経済活動」の2つの分野における数値予報の利用の現状や可能性について議論を行いました。この中で、現状数値予報は様々な場面で利用されているものの、今後一層効果的な利用を進めるにあたり、数値予報の更なる精度向上のほか、新たな予測データの公開への期待や、数値予報を基にした予測情報の伝え方に更なる工夫が必要であることなどが示されました。

また、パネルディスカッションの議論を受け、新野教授より、我が国の数値予報技術を更に向上させるためには、気象庁は大学等の研究機関と連携し、オールジャパンで技術開発に取り組むことが重要との見解が示されました。

数値予報への期待については、会場からも、数値予報データを閲覧・活用できる環境の充実、更には、様々なビジネスにおける数値予報の活用例を紹介してほしいといった声がありました。（会場内アンケートによる）

本シンポジウムで示された数値予報への期待を受け、気象庁では、今後一層幅広い分野で数値予報を利用いただけるよう、関係機関とも連携し取り組んでまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

気象庁予報部数値予報課

03-3212-8341（内線 3302）

(別紙)

## シンポジウム「数値予報～日々の生活に密着したソフトインフラ～」概要

- (1) 日時：平成29年1月28日(土) 13時00分～16時00分
- (2) 場所：星陵会館(千代田区永田町2-16-2)
- (3) 主催：気象庁
- (4) 後援：内閣府(防災担当)、消防庁、文部科学省、和歌山県、千代田区、  
東京大学、(一財)気象業務支援センター、(一財)日本気象協会、  
株式会社日立製作所、NHK、日本テレビ放送網株式会社、  
電気事業連合会、富士通株式会社

### (5) 内容(敬称略)：

#### 講演

- ・ 基調講演「数値予報の過去・現在そして未来」  
新野 宏(東京大学大気海洋研究所教授)
- ・ 「気象庁における数値予報の利活用と技術開発」  
松村 崇行(気象庁予報部数値予報課長)

#### パネルディスカッション「数値予報への今後の期待」

#### パネリスト：

- 丹治 和博(日本気象協会防災ソリューション事業部技術統括)
- 新野 宏(東京大学大気海洋研究所教授)
- 父母 靖二(中部電力株式会社中央給電指令所長)
- 山崎 登(NHK解説主幹)
- 和歌 哲也(和歌山県危機管理監)
- 松村 崇行(気象庁予報部数値予報課長)

司会・コーディネーター：鈴江 奈々(日本テレビアナウンサー)



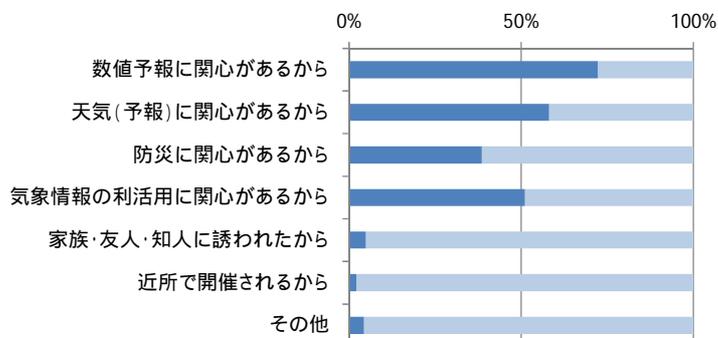
会場の様子



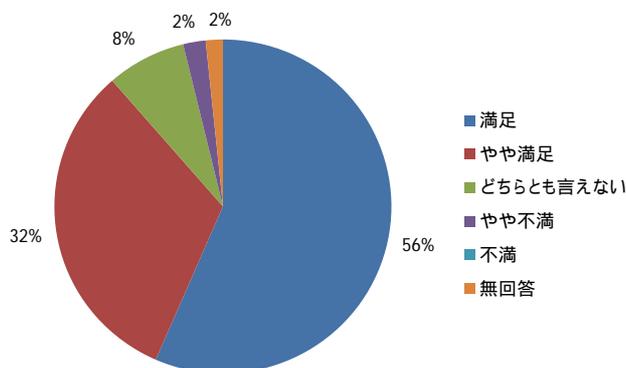
パネルディスカッション

(参考) 会場内アンケート結果

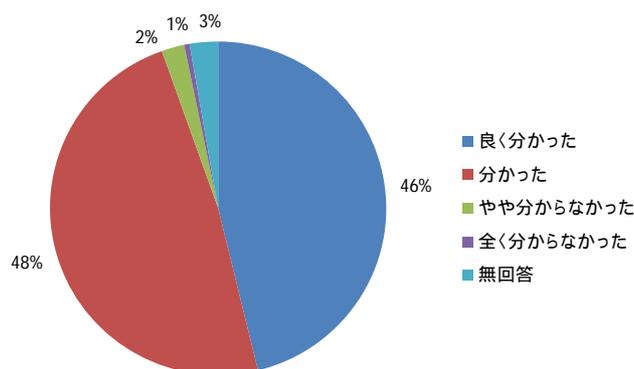
問 シンポジウムに参加しようと思ったきっかけは何ですか。(複数回答可)



問 今回のシンポジウムについて、どのくらい満足していますか。



問 今回のシンポジウムのテーマである「数値予報」について、お分かりいただけましたか。



数値予報に対する具体的なご意見・ご要望(一例)

- ・ 数値予報データを手軽に活用できるような環境が構築されると良い
- ・ 数値予報データが気象庁HPで見られるようになると良い
- ・ 幅広いビジネスへの活用に期待したい
- ・ 今後の改良スケジュールを示してほしい
- ・ 数値予報について、もっと知る機会を増やしてほしい